



技と心を磨く道場 和道会福井県本部 泉空館



取材日に参加した泉空館の会員、指導者、保護者の皆さん。写真後列右から3番目が支部長の河原さん

今回おじゃましたのは空手の競技団体・全日本空手道連盟和道会福井県本部の泉空館(せんくうかん)道場。福井県に6支部ある和道会道場のうちのひとつだ。和道会はいわゆる、突きや蹴りが相手に当たる瞬間に止める伝統派空手を伝承し、大会や昇級・昇段審査では「形(かた)」の美しさ、力強さ、スピード、

少子化にもかかわらず、児童を中心に幅広い年齢の会員があり、女子会員が多いのも特長。さらに、5人の指導者による初心者から有段者まで幅広い習熟度の会員に対応する手厚い指導が評判だ。また、大野市のスポーツ少年団に加入し、地域社会に貢献する人材を育むことを目標とし、会員たちは県

バランスが重視される。泉空館には幼児から成人まで約30人が所属。「明るく・元気よく・はきはきと・さわやかに」をモットーに、月・木曜日の午後7時から同8時30分まで、大野市のエキサイト広場総合体育施設2階剣道場などで楽しく稽古に励んでいる。

内外で行われる大会や昇級・昇段などを目標に日々、技と心を磨いている。和道会福井県本部・本部長で泉空館支部長の河原ゆかりさん(67)は「空手道だけではないスポーツの喜びを体験し、各々が大会などで悔いのない結果が出せるよう指導している」と語る。他道場では小学校低学年に入会し、中学生で有段者になると空手を辞めてしまう人が多いという。泉空館では、河原さんの「空手は生涯武道スポーツ。細くていいからできる限り長く続けてほしい」という思いから、有段者になっても辞める人は少なく、高校、大学になっても指導者として長く空手に携わる人が多いそうだ。取材日も黒帯を付けた中学生や高校生が、小さい子どもに形などの指導をし、子どもたちは真剣に耳を傾けている。身近な年長者の振る舞いや存在が皆の目標になっているようだ。子どもたちは皆、小さい体に充実感をみなぎらせていた。

会員募集中

全日本空手道連盟和道会は、国内外合わせて約1600の支部があり、約185万人の会員数を誇る。福井県には福井市2、坂井市2、奥越2の計6支部があり、約200人の会員が心身の鍛錬に励んでいる。各支部では随時会員を募集中。無料体験なども実施している。体験・入会の問い合わせは090-2037-3253(河原ゆかりさんの携帯電話)へ



和道会福井県本部ホームページ



形を披露する会員の皆さん。「えいっ」という気合いの大きな声が道場内に響く

賞状

6月に行われた、福井市少年空手道選手権大会「小学低学年団体形」部門で好成績を残した。空手は個人競技の他に3人程度の団体で形を演舞する団体戦もある。「皆で協力することで協調性も養われる。これからより力を入れていきたい」と河原さん



福井の夏を彩る 花火の百貨店 福井市 アラキ玩具花火店



店内にずらりと並ぶ手持ち花火。昔ながらの花火から20色に変色するもの、スイカの香りがするユニークなものまで、幅広いラインナップに圧倒される

福井市米松にある「アラキ玩具花火店」は、花火の専門店。手持ち花火や吹き出し花火、打ち上げ花火にへび玉、ねずみ花火などの昔懐かしいからくり花火、火が滝状に落ちる「ナイアガラ」など、約150種類もの花火を取り扱う。昭和生まれの筆者は店のドアを開けた瞬間、その品ぞろえの豊富さと懐かしさに思わず「ワー!」と歓声を上げてしまったほどだ。気さくで年齢を感じさせない店主の荒木信子さん(79)がご主人と二人三脚で営

店頭には「安全に花火を楽しんでほしい」という思いから、国産のものを中心に、柄が長い花火や燃焼時間の長い花火など、荒木さんが選び抜いた花火が並ぶ。この時期は、公民館や保育園の夏祭りの花火大会の依頼がひっきりなしだ。荒木さんは参加者の年齢、人数、開催場所の周辺環境などを丁寧に聞き出し、予算内で花火をそろえ、点火する順番や演出の仕方までアドバイスをする。さながら「花火のコーディネーター」だ。1度荒木

さんのお店を利用すると「その次の年も」と依頼は絶えない。個人の客にも対応しており、近隣住民だけでなく、荒木さんの人柄を慕って県外からも客がやってくる。みなひとしきり話し込んで最後には「おばちゃんまた来るね」と帰っていくのがこの店の日常だ。荒木さんは「今は花火を知らない、興味のないお子さんも増えている。花火をしたことがいい思い出になるよう、なるべく安全で安価なものを用意しています。危ないといって遠ざけるのではなく何事も経験。手持ち花火に火をつけた後は向かい合うのではなく横一列に並ぶと安全ですし、恐怖心も和らぎますよ。家族や地域の人たちと安全に楽しんで、夏のいい思い出をつくってくださいね」と話していた。



打ち上げ花火や噴出花火も見ての通りの品ぞろえ。「ド派手ソナー」など名前もユニーク



点火すると煙とともにニョロニョロ口ひる「へび玉」のほか、からくり花火もたくさん

アラキ玩具花火店

●福井市米松1-1-36
☎0776-53-2275
●午前11時～午後6時
●木曜日



※価格はすべて税込み。内容、価格は変更になる場合があります

個人情報保護法

さんぽみちではお客様に安心していただけるよう、個人情報の取り扱いに厳格に管理し、プレゼントのお届けに際しては利用させていただいております。

夏を涼しく… 背筋も凍る怪談

日本三大怪談と言えば「四谷怪談(よつやかいだん)」「番町血屋敷(ばんちょうちやうやしき)」「牡丹灯籠(ぼたんどうろう)」。いずれも江戸時代に生まれた有名な古典怪談だが、若い世代は知らない人も多いかもしれない。ここで簡単におさらいを。

(①舞台②内容③伝えている戒め)

四谷怪談

- ① 江戸の四谷界隈
- ② 夫に毒を盛られ、顔が崩れて非業の死を遂げたお岩が、幽霊となって夫とその周辺の人々に復讐を遂げる物語。
- ③ 人の道に外れた非道な行いは、やがて自身に破滅をもたらす。因果応報や怨念の恐ろしさを教えている。

番町血屋敷

- ① 番町血屋敷なら江戸の番町、播州血屋敷なら姫路城
- ② 大切な家宝の血を割った罪(濡れ衣)で殺され、井戸に投げ捨てられた女中お菊が、夜な夜な井戸から現れて「一枚、二枚…」と血を数える声が響き渡る物語。
- ③ 無実の罪と理不尽な死の悲劇を伝え、弱い立場の人に対する理不尽な仕打ちが、悲劇と怨念を生むことを警告している。

牡丹灯籠

- ① 江戸の町
- ② 浪人の萩原新三郎が、お盆の夜に牡丹の描かれた提灯を持つ美しい女性お露と出会い密に落ちる。しかし、お露はすでに死んだ幽霊で、二人が逢瀬を重ねるたびに新三郎は衰弱していく。
- ③ 死してなお愛する者への執着を捨てることのできない幽霊の悲しさを通して、愛の盲目性と危険性を描いている。

これらは、時代劇やホラー映画として数多く映画化されているので、レンタルビデオやDVD、各社動画配信サービスで視聴してみてもいい。



痛気持ちいい時間で夏バテ解消

高温多湿な日本の夏。最高気温が30度以上の「真夏日」どころか、35度以上の「猛暑日」が続く厳しい暑さだ。熱中症をはじめ、環境に体がうまく適応できずに起こるさまざまな体調不良を既に感じている人も多いのでは。夏の終盤に多い夏バテの声も今年は早くから聞こえてきそう。

夏バテ解消には「睡眠」「胃腸のケア」「自律神経の調整」などが重要と言われ、自分に合った健康法で対策を講じている人も多い。足のツボ刺激も夏バテ解消に効果的と聞き、7月に開院1年を迎えた福井市上伏町の「足つぼ療術院母心」を訪ねてみた。

「リラクゼーションではなくて健康維持や症状緩和を目的とした足ツボ施術です」と話す院長は元看護師。全身の臓器や器官が縮図のように投影されているという足の裏の反射区を

刺激することで、血行促進や老廃物の排出を促すよう働きかけるといふ。夏バテの症状の胃腸の不調や睡眠不足、むくみなどにもピンポイントで働きかけられるそうだ。反射区を一つ一つ説明しながら、全て手と指による丁寧な施術には安心感も受ける。施術後は爽快な「痛気持ちいい時間」だ。



自家製のハチミツショウガと足湯でリラックスした後、施術を受ける

「病気の後遺症に苦しむ家族を楽にしたい」という思いから、技術を学び身に付けたという院長。施術の結果、不調が改善した家族や効果を実感した知人らの後押しを受け、自分の技術をたくさんの方が求めているのではと思い開院に至ったそう。利用者は年齢性別さまざま、通う理由も身体の不調や事故の後遺症を和らげるためなど多岐にわたるとか。料金は「足湯(10分)+足ツボ(50分)」が4,400円。オプションの「ヒザ裏骨盤調整(約15分)」は1,500円。このほか希望者には「ヘッドスパ(約15分)」(1,800円)や「六星占術+龍神タロット占い」(2,000円)も行っている。



ホームページ

特典 「さんぽみち見たいよ」で施術(予約)すると
400円OFF
有効期限 9月末まで

足つぼ療術院 母心

●福井市上伏町12-54-2
☎080-5633-8855
●午前9時～午後4時 ※要予約
●日曜日 ●あり
ホームページで情報発信中



参加しませんか 狐の嫁入り花嫁行列

広く参加者募集中

民話や伝説として、日本各地に古くから言い伝えられてきた「狐(きつね)の嫁入り」。晴れているのに雨が降る「天気雨」のこどだったり、「狐火」が提灯行列に見えることをなぞらえた言葉だったりと、ミステリアスな魅力を感じずにはいられない。この「狐の嫁入り」の花嫁行列に見立てて「なかなか着る機会がなく“タンスの肥やし”になりがちな黒留めそでを着てみましょう」という催しが今年も開催され、参加者の募集が始まった。

狐の嫁入りの花嫁行列は、福井市松本公民館の教育事業の一環として2023年から始まったもので、地区の「松まつり」に合わせて開催。今回で3回目になり10月26日に開催予定だ。既婚女性の第一礼装として格式高い黒留めそでに描かれた吉祥文様は染色技術や伝統文化の結晶。芸術的な美しさも兼ね備える黒留めそでが一堂に会する姿は迫力ある華やかさで場の空気を圧し、着物の素晴らしさを再認識させてくれるそうだ。参加者は狐の面とマスクを着用するので、さらに幽玄な美しさが際立ち、恥ずかしさも薄らぐと好評だ。地区以外の人参加が可能。黒



留めそで(襦袢、帯、草履など一式)は各自が準備し、着付けは公民館のサポートを受けられる。狐の面やマスク、提灯は公民館が貸し出すそうだ。参加費は無料。同時に花嫁役と花婿役も募集しているの、興味があれば問い合わせを。募集締め切りは9月末で、詳しくは同公民館のホームページにも掲載予定だ。

●福井市松本公民館 0776-22-0085

今月の読者アンケートプレゼント

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

応募 ①希望のプレゼント ②住所、氏名、年齢、性別、電話番号 ③現在購読の新聞名 ④さんぽみちへのご意見・ご感想 ⑤読者からのお便りコーナー、テーマ「おじいちゃん・おばあちゃん自慢」への投稿を記入の上、下記のいずれかの方法でお送りください。

■はがき [宛て先] 〒910-0005 福井市大手3-2-13 中日新聞分室内 「さんぽみち8月号プレゼント」係

■メール osanpo@fukuikoho-c.co.jp

■LINE ID: @059fzwww

■ホームページ 投稿フォームから

※応募の際は「さんぽみちプレゼント係」と入力して下さい

A 「ミニチュアドールハウスの世界展」招待券 10人

B 「北斎広重 大浮世絵展」招待券 10人

締め切りは8月21日(木)必着
※当選者の発表は、プレゼントのお届けをもって代えさせていただきます。

スタッフ日記

今月の読者お便りコーナーのテーマ「背筋が『ゾクッ』とした話」いかがでしたか。みなさん、いろんな体験談があります。夏には必ずと言っていいほどテレビで怪談話が放映されますが、筆者が小さい頃、1人でトイレに行けなくなるのがわかっていても、怖くてゾクとする番組を見た後、実家の村の外れにある墓場が怖くて近くの道を通る時は、小走りを通ったり、大きな声で歌って怖さを紛らわしたり。その怖さは夏限定のゾクッ。夏以外は少しも怖くなかったのは、どうしてでしょうか。大人になった今は、恐怖のゾクッはなくなりました。

読者からのお便りコーナー

お題は ①

背筋が「ゾクッ」とした話

蛇が水田にいたため、水をかけたら蛇が頭を起して自分に向かって来た。持っていた柄杓(ひしゃく)で蛇の頭を叩いたら逃げて行った。蛇ににらまれて背筋が「ゾクッ」とした。(大野市 60代 女性)

近頃、高齢者の運転技術が問題になっていますが、先日後部座席に荷物を載せてドアを開け忘れ、開けたまま発車。同乗していた孫に指摘されてびっくり。慌てて車を止め、ドアを開けました。(福井市 60代 女性)

体重計に乗った瞬間(敦賀市 50代 女性)

セキセイインコを飼っていますが、暑いので縁側の戸を開けっ放しにしていたところ、野良猫が侵入しセキセイインコに襲いかろうとしていました。危機一髪阻止しましたが、ゾクッしました。(福井市 60代 女性)

徳島県にある祖谷のかずら橋を渡った時には心底ゾクッしました。次は池田町のかずら橋を渡ってみたい。(若狭町 60代 女性)

飲み会翌日に財布の中身が空だった時(福井市 40代 男性)

先日龍ヶ鼻ダムへ涼を感じに行ったのですが、その翌々日、ニュースでクマが出たと報道があり「もしかして自分も襲われる可能性があったのでは」と後からゾクッとしました。それ以外にも、近所の畑で人影を見てあいさしたらサルだったり…動物と接触すると怖いですね。(福井市 40代 女性)

投稿募集

投稿してください皆さま、ありがとうございました。今回のテーマは「おじいちゃん・おばあちゃん自慢」です。敬老の日になんで、おじいちゃん・おばあちゃんの自慢をエピソードを添えて教えてください。
※内容を変えない範囲で手直しすることがあります。ご了承ください。

簡単♥おいしいクッキング〜

めかぶ入り 山形のだし



【材料】(2〜3人分)
キュウリ …………… 2本
ナス …………… 1本
ミョウガ …………… 2本
大葉 …………… 10枚
ショウガ …………… ひとかけ
味付けめかぶ … 1パック
しょうゆ …… 大さじ1〜
塩 …………… 小さじ1/2

【準備】
キュウリ、ナスは7〜8角に切る。そのうち、キュウリは塩(分量外)をもみ込み、5分ほど置く。ナスは塩小さじ1/2を溶かした水の入ったボウルに入れ、10分ほど置く。ミョウガ、大葉、ショウガはみじん切りにする。

【作り方】
①キュウリ、ナスはしっかりと水気を絞り、別のボウルに入れ混ぜ合わせる。
②①にミョウガ、大葉、ショウガ、味付けめかぶ、しょうゆを入れよくあえたら器に盛り付けて出来上がり。

※味付けめかぶはスーパーマーケットで3パック1セットで売っているものを使いました。※しょうゆの量は好みに応じて調整して下さい

☆「山形のだし」とは、暑くて食欲がなくなる時期にキュウリやナスなど水分を多く含む野菜と、大葉、ミョウガなどの香味野菜をあえた山形県の夏の郷土料理です。食べ方はご飯や冷やっこに載せる、そうめんの薬味にするなどお好きな食べ方でどうぞ。